

献辞

藤田真一先生は、二〇一八年三月三十一日をもって、関西大学をご退職される。二〇〇〇年十月ご着任以来、十七年余の長きにわたるおつとめであったので、お送りするわれわれも万感胸にせまるものがある。

先生のご研究分野は俳文学、なかんずく与謝蕪村研究の第一人者であられた。先生は周囲に対していささか峻厳な言動をされることがある。ご苦勞なさったのであろうと拝察するが、その厳しさはなによりもご自身のご研究に向けられていたのであろう。世俗的な付き合いなどはあまりなさらず、学問一筋に精励してこられた。研究者の鑑といえよう。そのようにして成し遂げられた研究成果は豊かであり、別項の「研究業績書」のように数多い。そして主著『蕪村 俳諧遊心』で文部大臣賞をうけられたように、一般にもその評価は高いのである。先生のご講義はこれらの研究に裏打ちされた質の高いものであったが、案に相違して受講のゼミ生が少数であったことは惜しまれることであつた。

先生は定年の年限までの期間を余して、余裕をもってのご勇退である。これからはさらにご研究に打ち込まれることと存するが、私ども関西大学国文学会は、このご退職を記念して、ささやかながら『國文学』「藤田真一教授退職記念特集号」を献呈させていただくこととなつた。最後に、藤田真一先生、今後ますますご壮健で、さらに後進をお導きください。そしてご多幸を祈りあげます。